
子供の聴力について

博士補聴器

聴覚損失がある子供は、人の話が聞こえにくいためによく聞き返しをします。これは話を聞く集中力が悪いと誤解されたり、学習能力に差がある、反応が遅い、理解力や極端な例ではIQが悪いと誤解されることがあります。このような誤解を受ける事で子供たちは徐々に自信を失うことがあり、疎外感を感じ、徐々に自分と他人を隔離することがあります。

実際には、難聴のほとんどの子供は、残存聴力を利用する事が出来、適切な補聴器や人工内耳等のその他の補聴用具を使用し、言葉のリハビリテーションを受ける事ができます。

たとえ重度の難聴を持つ子供も徐々に特定の音に反応する事が出来ます。加えて、視覚的、触覚的な環境の刺激を加える事で、言語機能は徐々に開発され得ます。子供が聴覚の問題を有するかどうかを発見する事は、家系に遺伝的な難聴が有るかどうかに加えて、妊娠中の母体への影響、また、子供の行動や日常生活の反応に注意を払うことでみることが出来ます。

家系と妊娠時

- お子様の父親、母親の家系中に聴力損失がある人は居ますか？
- 妊娠期間とその妊娠前の3ヶ月以内に風疹やその他の感染症にかかりましたか？
- 1ヶ月以上の早産ですか？
- 誕生時の体重が1500グラム以下でしたか？
- 誕生後に黄疸の病気になったことがありますか？
- 誕生時に酸欠の現象がありましたか？
- 頭部と頸部に先天的に異常がありますか？（例えば、小耳症、外耳狭窄、顔面骨狭小等）

子供の行動や日常生活の反応

- 音の発生源を特定する事が難しい
- 比較的小さな声で話すときに反応が遅い
- 人の話の内容をよく理解できない

- 人の話を聞いているときに、別の方向を向きたがる
- 人の話を聞いている時、必要以上に話している口に近づいてきたり、必要以上に熱心に顔や口を見ている
- 人が話しているのにはっきりしない様子だ
- 全く脈絡のない返事をすることがある
- 似ている語彙や言葉を混同しやすい
- 雑音の中ではコミュニケーションが困難だ
- テレビやラジオの音量を大きくしたがる
- 言葉の発声が不明瞭だ
- 耳が痛いことや、耳鳴りを訴える
- 授業中にクラスで集中できない
- 他の友達と交流する事を拒否し、一人で遊ぶのが好き
- 同級生に比べて新しい事を学ぶのが遅い

子供が上記の行動をできなかったとしても、必ずしも聴力に問題があるわけではありません。これはあくまでも目安であり、子供の発達に注意を向けるためのものです。子供に問題が考えられる場合はできるだけ早く病院で検査やカウンセリングを受ける事をおすすめします。

聴力検査

聴力に異常があるかどうかは聴力検査で診断できます。子供に難聴があると疑われる場合は医師の診断を受ける必要があります。そこで詳細な聴力検査を受けた後、適切な治療や対策を受ける事ができます。